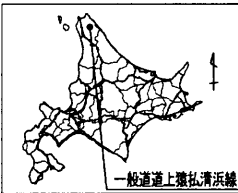
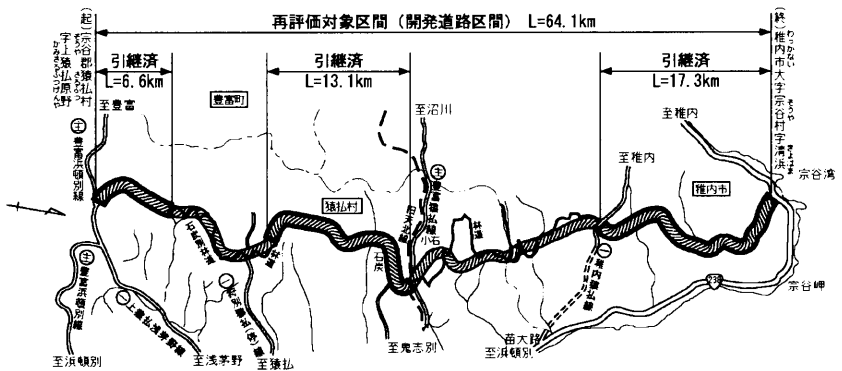


再評価結果（平成16年度事業中止箇所）

担 当 課：北海道開発局建設部道路計画課
担当課長名：高松 泰

事業名 一般道道 上猿払清浜線	事業区分 地方道	事業主体 国土交通省 北海道開発局								
起終点 自：北海道宗谷郡猿払村字上猿払原野1778番1 至：北海道稚内市大字宗谷村字清浜48番1	延長 64.1km									
事業概要 上猿払清浜線は猿払村から稚内市に至る延長約64kmの一般道道であり、全区間が開発道路に指定されている。本路線の整備により稚内市と北オホーツク地域の内陸路線を形成し、農林水産品の流通支援、観光アクセス向上のほか、緊急輸送道路である国道238号の代替路線としての役割を果たすことが期待される。										
S51年度事業化	S一年度都市計画決定	S57年度用地着手 S58年度工事着手								
全体事業費 約260億円 事業進捗率 65% 供用済延長 37.0km										
計画交通量 810台/日										
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 0.4 (残事業) 1.5	総費用 ：(残事業)/ (事業全体) 70/288億円 事業費：57/257億円 維持管理費：13/31億円								
		総便益 ：(残事業)/ (事業全体) 103/103億円 走行時間短縮便益：85/85億円 走行費用減少便益：15/15億円 交通事故減少便益：2/2億円								
		基準年 ：平成15年								
感度分析の結果 事業全体について感度分析を実施 交通量変動：B/C=0.4(交通量+10%) B/C=0.3(交通量-10%) 事業費変動：B/C=0.3(事業費+10%) B/C=0.4(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=0.3(事業期間+20%) B/C=0.5(事業期間-20%)										
事業の効果等 ・国土・地域ネットワークの構築(現道等における交通不能区間を解消する) ・災害への備え(緊急輸送道路が通行止になった場合の代替路線を形成する) 他4項目に該当										
関係する地方公共団体等の意見 沿線自治体からは、路線の整備要望が出されているが、事業の厳しい情勢に一定の理解が示されている。また、北海道からは「当該路線の事業執行上の課題及び現在の事業進捗状況等を勘案すると、事業の中止もやむを得ない」旨の意見が出されている。										
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 主要道稚内幌延線および豊富猿払線が整備。猿払村では、平成10年に道の駅「さるふつ公園」がオープン。平成15年に絶滅危惧種「イトウ」保護のため産卵・孵化時期の工事が規制。										
事業の進捗状況、残事業の内容等 開発道路区間64.1kmの内37.0kmを北海道に引き継いでいる。										
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 残区間は、構造物が多数あり、片押し施工に加え積雪により工事期間が限定される。また森林管理局よりイトウ保護を目的とした工事禁止に係わる通達が出されたところである。これらの現地状況を勘案すると全線の供用は最短でも平成20年代後半以降になるものと想定される。										
施設の構造や工法の変更等 1. 5車線の整備や既存林道の活用等を実施しても、並行路線である国道238号に比べて走行速度が低下するため便益の増加は望めず、有効なネットワーク形成とはならない。										
対応方針 事業中止 今後、本路線周辺の道路ネットワーク機能の充実に関する検討を進めることとする。										
対応方針決定の理由 事業の投資効果、事業の進捗の見込み、代替案立案の可能性及び関係地方公共団体等の意見を総合的に判断した。										
事業概要図										
 <p style="text-align: center;">一般道道 上猿払清浜線</p>	<p>再評価対象区間（開発道路区間） L=64.1km</p> 									
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">凡</td> <td style="width: 50%;">例</td> </tr> <tr> <td>——</td> <td>供用中</td> </tr> <tr> <td>——</td> <td>再評価箇所</td> </tr> <tr> <td>——</td> <td>うち引継ぎ</td> </tr> </table>	凡	例	——	供用中	——	再評価箇所	——	うち引継ぎ		
凡	例									
——	供用中									
——	再評価箇所									
——	うち引継ぎ									

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。